

「健康相談活動演習」における学習の成果および課題の分析

今 野 洋 子

北翔大学『人間福祉研究』 第14号 2011年

「健康相談活動演習」における学習の成果および課題の分析

今野 洋子*

要 旨

本研究は、教育職員免許法施行規則第9条に養護の専門科目として示される科目「健康相談活動の理論及び方法」において、演習形式の授業によって獲得される資質能力等について把握し、学習の成果と課題を検討することを目的とした。学生のレポート（12回分336部）および授業評価の分析、授業概要や教育課程を分析することにより、以下の諸点をとらえることができた。

1. 受講学生は本授業に対し、意欲を持って臨むことがうかがえた。また、授業中の教員の指摘や前時の反省を踏まえ、【養護教諭役への準備】を行なって臨むことが把握できた。このことには、全員の前で養護教諭役となって対応する健康相談活動のロールプレイング演習という授業形式が関わっていることが考えられた。
2. 知識の習得がされたことが読み取れたが、理解が深められたものの、知識技術の不足が考えられた。しかし、その子どもを理解し対応するために「健康相談活動」実践についてよく考えることができたといえよう。
3. 特に能力向上という点で授業改善の必要性やより一層の授業の充実が求められることが把握できた。また、時間配分や教室環

境についても改善の必要性がある。

I. はじめに

養護教諭養成において、養護教諭の健康相談活動に関する実践力育成のための教育の中核は、科目「健康相談活動の理論及び方法」にあり、この科目は、1998年に改正された教育職員免許法（以下、教免法とする）施行規則第9条の養護に関する専門科目として新設されたものである。教免法は、その前年1997（平成9）年保健体育審議会答申（以下保体審答申とする）の指摘¹⁾を踏まえ、現代的課題に対応できる専門性の高い養護教諭を育てるという理念のもと、保体審答申に示された養護教諭の「新たな役割」¹⁾を担保するため改正された。

1997（平成9）年の保体審答申で「健康相談活動」とは、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を十分に生かし、児童生徒の様々な訴えに対して常に心的な要因や背景を念頭において、心身の観察、問題の背景の分析、解決のための支援、関係者との連携など心と体の両面への対応を行う活動である¹⁾とされ、これが「健康相談活動」の定義となっている。

さて、新設科目である「健康相談活動の理論及び方法」については、2003（平成15）年、にモデルシラバス²⁾が示された。本シラバス

*北翔大学人間福祉学部福祉心理学科

キーワード：健康相談活動演習 体験 ロールプレイング

においては、具体的な授業内容や方法、15回の展開についても明示されている。

2006（平成18）年、日本養護教諭教育学会では「養護教諭固有の」ということばを加えた定義が採用³⁾され、「健康相談活動理論及び方法」については、余人を以て替えがたい養護教諭の職務であることが強調された。

また、2007年文部科学大臣の諮問文理由説明において、「子どもの心と体の悩みや痛み適切に応える健康相談活動を充実・強化していかなければならない」ことが指摘され、翌2008（平成20）年の中教審答申⁴⁾で、保健室来室者の状況を踏まえ、「養護教諭の行う健康相談活動がますます重要」⁴⁾と提言された。また、同答申において養護教諭の「現在の」役割⁴⁾が5つ例示され、そのうちのひとつが「健康相談活動」とされた。つまり、「健康相談活動」は現代の子どもの心身の健康課題に対応するために重要なものであり、養護教諭にしか担えない重要な役割といえる。この点からも、養護教諭を目指す学生にとって本科目「健康相談活動理論及び方法」の学びの効果が期待される。教免法改正の趣旨を念頭に、どのように養護教諭養成を保障していくか、筆者は養成する立場にある者の大きな責務と捉えている。

しかし、教免法と養護教諭養成に関して、大谷ら（1999）⁵⁾の研究をみると、現在の養護教諭養成教育は、改正の理念に見合った養護教諭養成を保障しているとは言い難く、多くの課題があることが報告²⁾された。また、養成機関全体における健康相談活動の能力育成に関し、科目新設された当時の「健康相談活動の理論及び方法」の開講状況について、後藤ら（2006）⁶⁾の研究で、科目名の多様さ

や科目内容の不十分さが指摘⁶⁾された

また、中教審答申で「養護教諭の行う健康相談活動がますます重要」と提言⁴⁾された一方で、2009（平成21）年4月施行の学校保健安全法において、「健康相談活動」という語句は用いられず、これまでの「健康相談」が拡大されて使われる中で健康相談活動はその中に含めて扱われるようになった。（財）日本学校保健会の報告書（2009）⁷⁾で「養護教諭の行う健康相談」という表記となっており、「健康相談」と「健康相談活動」の表記において混乱が生じていることがうかがえる。そこで、現代的課題に対応できる専門性の高い養護教諭を育てるという理念のもとに改正された教免法上の科目「健康相談活動の理論及び方法」が、養成教育においてどのように養護教諭養成を保障しているかを探る意義は大きいと考えた。

そこで、本研究の目的を、科目「健康相談活動の理論及び方法」において、演習形式の授業によって獲得される資質能力等について把握し、学習の成果と課題を検討することとした。

Ⅱ. 研究対象および方法

2010年4～7月、本学（養護教諭一種免許状課程認定を受けている学際系大学である）の科目「健康相談活動演習（2年次前期開講科目・2単位：養護教諭一種免許状取得上選択科目）」を対象とした。

教免法施行規則の養護専門科目の「健康相談活動の理論及び方法」について、本学では2科目4単位分を開講しており、1年次後期の「健康相談活動の理論及び方法（必修2単位）」および2年次前期の「健康相談活動演

習（選択2単位）」がある。なお、「健康相談活動演習」は2単位であるが、履修指導上、養護教諭を目指す学生は受講するよう指導しており、養護教諭志望学生全員が受講している。

本科目の構成や内容および他の科目とのつながりについて整理し、分析することとした。また、受講学生29名（再履修学生1名含む）が授業終了時に書いた「小レポート」12回分（オリエンテーション等を除いた）についてWordMinerを使用して分析した。分析内容の妥当性については、研究者6名に確認してもらった。授業評価については、本学FD委員会の授業改善アンケート調査結果を活用した。

Ⅲ. 倫理的配慮

倫理的配慮として、受講学生に対し、第一回目の授業の中（オリエンテーション）で、研究の目的および研究概要について説明し、協力を依頼した。その際に①個人名を出して結果を公表しないこと、②研究の協力を拒否する権利があること、③途中から拒否することもできること、③成績に関係しないこと等を口頭で説明し全員から了解を得た。

小レポートはデータ化し、鍵のかかる部屋に保管した。プリントアウトしたものについては、研究に使用したあと焼却処分した。

Ⅳ. 結 果

1. 教育課程上の位置づけと授業概要

本学の養護教諭養成に関する教育課程を整理しまとめたものが、図1である。入学まもない1年前期から養護教諭に関する専門的な学習が展開されている。

「健康相談活動演習」は1年次後期開講科目「健康相談活動の理論及び方法」で健康相談活動の基本を理解した上で、観察やヘルスアセスメント、対応や連携についての資質能力の向上をねらいとし、養護教諭役・子ども役等のロールプレイング体験を演習しながら学ぶ科目である。

本科目の到達目標や具体的な展開に関して、シラバスだけでなく展開表を学生に示した。

なお、「健康相談活動」は保健室の機能を活かして行うべきものであり、その演習として模擬保健室を使用することが望ましい。本学では、使用教室が普通教室であるため、授業開始前に教室の中に、机を利用して布団をかけ、ベッドに見立てたものを準備し、救急処置用のワゴン、衝立等を設置し、保健室様スペースを黒板前に配置して、ロールプレイングを行う工夫している。

15回の授業計画は、4～3月の一年間の保健室を想定し、内科的訴えから開始されるものや外科的訴えから開始されるもの等に分けて構成した。受講学生29名を12グループに分け、最初のオリエンテーション時に担当回（担当月）を展開表に示した。

1回の授業（90分）は、①ほけんだよりを用いての保健指導を行なわせてから、②演習（ロールプレイング）を行なわせ、必ず③振り返り・小レポートを作成させて終了する。養護教諭にとっては、子どもの生活の理解が欠かせないことから、担当回（担当月）の子どもの様子や学校の状況、生活の理解をはかれるよう、ほけんだよりを用いての保健指導を行なわせてから、健康相談活動の場面の演習を行っている。

科目	1年		2年		3年		4年	
	前	後	前	後	前	後	前	後
看護専門科目	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)			衛生学 学校保健	公衆衛生学			
	学校保健			学校保健				
	養護実習Ⅰ	養護実習Ⅱ		養護実習Ⅰ 養護実習Ⅱ	養護実習Ⅰ 養護実習Ⅱ			
	養護概説	健康相談活動の理論および方法	健康相談活動の理論及び方法	健康相談活動実習				
	健康相談活動の理論および方法	栄養学(食品学を含む。)	栄養学(食品学を含む。)					
	解剖学及び生理学	解剖生理学						
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	微生物学(含免疫学)		薬理学概論				
	精神保健				精神保健			
	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	看護学各論Ⅰ 看護学各論Ⅱ	看護学各論Ⅰ 看護学各論Ⅱ	救急処置 看護学臨床実習				
	看護学概論	看護学概論						
教職科目	教職概論	教職概論						
	教職の意義等に関する科目	教育原理 教育経営学						
	教職の基礎理論に関する科目							
	教育課程に関する科目			特別活動の研究 教育課程論	道徳教育の研究 教育方法論(含情報機器・教材活用)			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目							
	教育相談(含カウンセリングの基礎)							
	総合実習							
養護実習				養護実習講義				

講義 : 講義
実習 : 実習
実習 : 実習

図1 教育課程表

2. 小レポートの分析

学生全員の小レポートを分析した結果、保健審答申のキーワードである【心身の観察】【背景の分析】【養護教諭の職務】【保健室の機能】【子どもに応じた対応】【関係者との連携】、また授業に直接に関わる【養護教諭役への準備】【養護教諭役の課題】【子ども役をしての感想】【観察者として把握したこと】【自己課題】【保健指導】【本時の学習課題】【ほけんだより】、次年度に控えた養護実習を視野に入れた【養護実習への期待】のカテゴリーが得られた(表1)。

表1 カテゴリー名と分類

分類	カテゴリー名
保健体育審議会答申のキーワード (健康相談活動の定義)	心身の観察
	背景の分析
	養護教諭の職務
	保健室の機能
	子どもに応じた対応
授業に直接関わることから	関係者との連携
	養護教諭役への準備
	養護教諭役の課題
	子ども役をしての感想
	観察者として把握したこと
	自己課題
	保健指導
	本時の学習課題
ほけんだより	
養護実習に関することから	養護実習への期待

具体的な記述に着目すると、【心身の観察】については、「(心身の)観察力があるかないかで、その子どもへどれだけ深く関われるかが違うことがわかった」「児童役の〇〇さんがアピールしていたのに、私は心身の観察で気づくことができなかった」等の記述が見られた。【背景の分析】については、「背景を分析するため、理論として頭でわかっている、実際に行なうと難しかった」「日常の子どもの様子がわからないと背景の分析はできない

と思った」等があった。【子どもに応じた対応】では、「その子どもが好きなことや興味のあることから、うまく話を引き出し、対応につなげることがわかった」「この子どもがどんな受け止め方をするか様子を見ながら、座る位置やタッチングを工夫した」等であった。【養護教諭役への準備】は、「自分が養護教諭役になったときのために、今日の留意点を活かせるよう、十分準備したい」「今回の反省を次回の養護教諭役に活かせるように備える」等の記述が挙げられた。

また、【子ども役をしての感想】では、「演技ではあったが、こう言われたらいやだなと思ひ、養護教諭のことばかりの大切さを知った」「子ども役をしていて、目の前で養護教諭が動揺しているのをみるとすごく不安な気持ちになった」「タッチングのタイミングもよく、話し方もやさしくて、安心できる雰囲気先生でよかったと思えた。」等の記述が見られた。

4. 授業評価

本学で実施しているFD委員会による授業改善アンケートによる調査結果から、総合的な判断から「よい授業だと思う」4.86、「教員に熱意が感じられた」4.82、「考え方、能力、知識などの向上に得るところがあった」4.79等、授業評価は概ね高かった(資料1)。

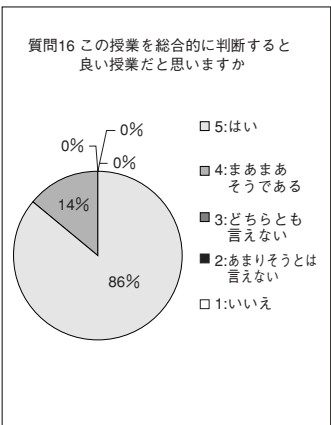
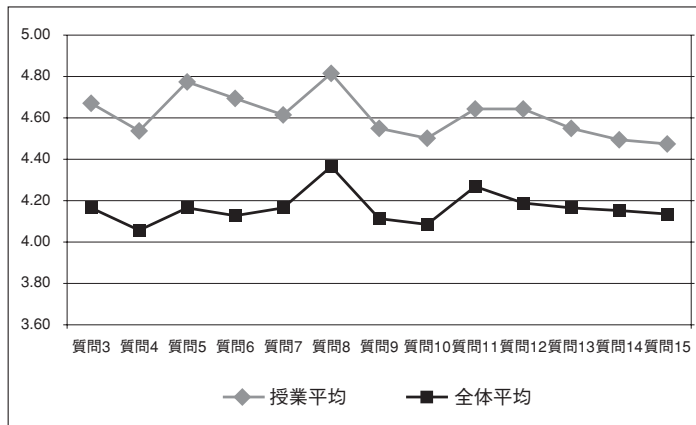
自由記述に着目すると、授業でよかったと思う点について、「ロールプレイングや保健指導など実際に養護教諭になった気持ちで毎回授業に参加できたので意識が高まった」「ロールプレイングで実践的に学べた」「ロールプレイングを行い、実際に自分でやってみるによって体で覚えることができた」等

資料1 平成22年度 (前学期) 授業改善アンケート調査 個別分析表

※1質問1 動機の第1理由から第3理由のうち、もっとも選択数の多かった項目番号を記載

- 1) この授業に関心があったから
- 2) 単位が取り易そうだから
- 3) 教員に魅力があったから
- 4) 友達が多く履修しているから
- 5) 自分の専門に関係が深い分野だから
- 6) 幅広い教養を身につけるため
- 7) 先輩に勧められたから
- 8) 他の授業で断れたので仕方なく
- 9) 必修だから
- 10) その他

質問内容		①	②	③
質問1	この授業を履修した動機を強い順に3つ選択してください。	9	5	1
		授業平均	全体平均	
質問2	(あなたは) この授業を何回欠席しましたか	0.70	1.52	
		授業平均	全体平均	5:はい 4:まあまあ 3:どちらとも言えない 2:あまりそうとは言えない 1:いいえ
質問3	この授業を意欲的に受講しましたか。	4.68	4.17	20
質問4	内容を理解できましたか。	4.54	4.06	16
質問5	考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか。	4.79	4.18	23
質問6	シラバスに授業の目標や授業計画は具体的に示されていましたか。	4.71	4.14	20
質問7	シラバスに成績評価基準と評価方法は具体的に示されていましたか。	4.61	4.16	19
質問8	教員に熱意は感じられましたか。	4.82	4.36	24
質問9	教え方(教授法)はわかりやすかったですか。	4.54	4.12	17
質問10	教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。	4.50	4.09	17
質問11	授業はよく準備されていましたか。	4.64	4.26	19
質問12	教員の話し方は聞き取りやすかったですか。	4.64	4.18	20
質問13	板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。	4.54	4.17	18
質問14	教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。	4.50	4.16	16
質問15	オプション(授業担当教員から指示があります。)	4.46	4.14	15
質問16	この授業の総合的に判断すると良い授業だと思いますか。	4.86	4.27	24



の【ロールプレイング】に関する記述が多く
みられた（表2）。

授業の改善点としては、【時間配分】【教室】
等、演習の時間の不足や模擬保健室の必要性
が指摘された（表3）。教員が設定した「健

康相談活動における資質能力の課題は何か」
という問には、【コミュニケーション能力】
【判断力】【処置能力】が挙げられた（表
4）。

表2 問17 この授業で良かったと思う点。

カテゴリー	記述例
ロールプレイング	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングや保健指導など、実際に養護教諭になった気持ちで毎回授業に参加できたので意識が高まった。 ・ロールプレイングで実践的に学べた。 ・ロールプレイングを行い、実際に自分でやってみることで体でも覚えることができた。 ・ロールプレイングを通して子どもとの関わり方を学べた。 ・養護教諭になりきって健康相談活動を行うことができた。 ・ロールプレイング ・体験的な講義により、具体的にどのように行動したらよいか学ぶ事ができた。 ・ロールプレイング中心なので、教科書だけではわからないことがたくさん学べた。 ・養護教諭になるために必要な知識を、実際にロールプレイングを行うことにより理解できた。 ・実際に道具を使ったり、細かい設定のもとでの実践的なロールプレイ。 ・実際の養護教諭の体験をして、難しいこともあったが、とても充実した授業になった。 ・ロールプレイング ・実際にロールプレイングを行って、養護教諭になったとして、対応を行う事でいろいろ考えられるのでいいと思った。
知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識を身につける事ができた。 ・養護教諭の知識をたくさん得る事ができた。
事例	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の時の対応も行えた事 ・事例について全員で検討でき、さまざまな問題がある子どもたちを想像することができた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の資質や必要性について学べた。 ・各々で考えて行う授業であるため、自分に足りない側面を自分で見つけることができた。 ・実際の状況での対応を感じながら学ぶ事ができた。 ・実践的なところ ・コミュニケーションのとり方を学ぶ事ができた。 ・先生の一言一言が心に残るものであった。 ・処置の仕方を具体的に教えてくれた。

表3 問18 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点。

カテゴリー	記述例
時間配分	<ul style="list-style-type: none"> ・時間配分 ・もっと時間に余裕がほしい。 ・授業時間が足りない。
教室	<ul style="list-style-type: none"> ・教室について。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れがでてしまう。 ・バリエーションの幅を広げるべき。 ・学生同士が互いに厳しくコメントするべき。 ・実際に保健室で対処する時に皆に見られないので、前でひとりずつ行わなくても良いのではないか。過度に緊張する。

表4 問19 健康相談活動における資質能力についての課題は何か。

カテゴリー	記述例
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力。 ・思いやり。 ・声かけ。 ・たくさんあるが子どもとのコミュニケーション。 ・コミュニケーションはどうとっていくかが課題。 ・常にきちんとした問診を行い、基本を忘れずに子どもと向き合い、言葉のキャッチボールをすること。 ・相手に合った対応。 ・子どもへの対応力や広い視野。 ・子どもの気持ちを理解すること。
判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・判断力。 ・もっと判断力が必要。 ・予測して診断しない。 ・問題の見極め能力。 ・状況に応じた判断能力。 ・物事をしっかりと見極める力。 ・物事を冷静かつ客観的に見る力が必要。
処置能力	<ul style="list-style-type: none"> ・処置能力。 ・手際が課題。 ・看護的能力。 ・優しさ、冷静な対処。
観察力	<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野で物事を観察すること。
応用力	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や経験を踏まえた応用力。 ・さまざまなことに対して、対応する能力、応用力。 ・臨機応変に対応すること。
行動力	<ul style="list-style-type: none"> ・行動力。 ・すばやさ。
連携する力	<ul style="list-style-type: none"> ・他の関係者と連携する力。
知識	<ul style="list-style-type: none"> ・知識。 ・正しい知識。 ・専門知識。 ・疾病や外傷に関する専門知識。 ・外科的な病名などを頭に入れる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんある。

V. 考 察

1. 授業に臨む態度の育成

授業評価およびレポート分析から、受講学生は本授業に対し、意欲を持って臨むことがうかがえた。また、レポート分析から、授業中の教員の指摘や前時の反省を踏まえ、【養護教諭役への準備】を行なって臨むことが把握できた。このことには、全員の前で養護教諭役となって対応する健康相談活動のロールプレイング演習という授業形式が関わっていることが考えられた。

展開表の配布と次時の予告が影響していることも考えられ、学生が見通しを持って授業に臨む必要性があることが指摘できる。

また、意欲的な授業態度の育成には、カリキュラム編成もかかわっていることが考えられた。前述したように、本学では「健康相談活動の理論及び方法」科目を、応用科目として養護教諭養成カリキュラムに位置づけており、解剖学、生理学、看護学の知識・技術等の既習したことがらを生かせることが学生の意欲につながったことがうかがえた。

「開発研究会モデルシラバス」²⁾は、健康相談活動に深く関連する科目を既習したものとして作成されたものであり、たとえば養護専門科目では心身相関に関する学習や、解剖学、生理学、看護学の知識・技術、教職では教育相談や生徒指導などのカウンセリングの基礎知識と技術、発育発達論などをすでに学んだ上での指導を計画すると授業効果がある⁶⁾ものである。本学においても、このことを理解した上でカリキュラムの編成がおこなわれているといえる。

2. 養護教諭に必要な資質能力

授業評価から、「考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがあった」ことや、授業内容の理解がされており、知識の習得がされたことが読み取れた。しかし、レポート分析からは、【心身の観察】の重要性等について理解が深められたものの、観察のための知識技術の不足が考えられた。たとえば、【心身の観察】において、どのような点を観察すればいいか、緊急度の判断や除外診断を行うために何が観察点となるかということについては既習事項でもあり、十分な理解がされていたことが考えられた。しかし、演習時において、目の前の子ども（役の学生）と向き合ったとき、その子どもの状態と結びつけてどうみるか、うまくできなかったことがうかがえた。特に、限定された場面でのロールプレイングでは、相対する子どもの日常の様子を十分に知っているわけではないため、日常の子どもとどこが違うかということを意識する上で、困難を感じたことがうかがえた。しかし、その子どもを理解し対応するために「健康相談活動」実践についてよく考えることができたといえよう。

また、授業評価およびレポート分析から、【子どもに応じた対応】として、子ども（役の学生）とのやりとりの中で、養護教諭としてどう対応しなければならないかを実践的に学び、工夫していることがうかがえ、ロールプレイングという演習で学ぶ体験のよさが捉えられた。

さらにレポート分析から、【子ども役を演じるの感想】において、子ども役を演じる体験をしなければ、実際に養護教諭の態度やことばづかい、タッチング等について深く理解す

ることができないことが示された。このことは、言い換えれば、子ども役を演じ、子どもの立場に立つことにより、養護教諭としてどうすれば子どもを安心させ心を開かせることができるかを学ぶことができるということになる。

また、授業評価の自由記述欄から、養護教諭に必要な資質能力を理解することができたことが把握された。養護教諭に何が必要かということを理解した上で、その必要な資質能力を身につけることが重要であろう。保健室では養護教諭がひとりで対応するからこそ、十分な専門性を身につけておかなければならず、演習はそのための機会である。

3. 課題と授業改善の方向性

ロールプレイングを含めた演習によって、【心身の観察】の重要性についての理解や養護教諭に必要な資質能力が何かということについては深められたものの、知識や技術がまだ不足していることを自覚したことが考えられた。特に、【背景の分析】について、理論等の知識を理解していても、目の前の子どもの状態と結びつけて考えられるかということについてできなかったことが把握できた。同時に、日常の子どもとどこが違うかということ意識しなければならないことを理解し、「健康相談活動」実践についてよく考えることができたといえよう。【子どもに応じた対応】では、子ども役とのやりとりの中で学び工夫していることがうかがえ、ロールプレイングという演習で学ぶ体験のよさが捉えられた。また、【子ども役をしての感想】から、子ども役を体験しなければ、実際に養護教諭の態度やことばづかい、タッチング等に

ついて深く理解することができないことが示された。

健康相談活動演習によって、養護教諭の資質について高められ、必要な能力についての理解も深められたが、特に能力向上という点で授業改善の必要性やより一層の授業の充実が求められることが把握できた。

また、演習ということから時間配分や教室環境についても改善の必要性が指摘された。

VI. おわりに

養護教諭の専門性を大切に、養成教育が養護教諭の実践のための一灯となることを願い、授業の改善を目指し、養成教育に力を尽くしていきたい。

【謝 辞】

快く本研究に協力して下さった学生の皆さまに心から感謝申し上げます。

【付 記】

1. 本研究は科学研究費（課題番号20530697）の助成を受けたものである。
2. 日本養護教諭教育学会第18回学術集会（大阪市，2010年）において研究の一部を報告した。

【文 献】

- 1) 保健体育審議会：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツ振興の在り方について（答申），28，文部省，1997
- 2) 健康相談活動カリキュラム開発研究会：報告書 健康相談活動の理論及び方法—カリキュラム及び指導方法の開発—，2003

- 3) 日本養護教諭教育学会：養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第一版〉，2006
- 4) 中央教育審議会：子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申），文部科学省，2008
- 5) 大谷尚子・松嶋紀子・小林冽子他：養護教諭養成教育のカリキュラム構造に関する研究－国立教育学系4年生大学における現行養護専門科目の開設の実態と展望－，日本養護教諭学会誌 2 (1)，12-23，1999
- 6) 後藤ひとみ・三木とみ子・徳山美智子他：「健康相談活動の理論及び方法」の開講に関する現状と課題～養護教諭一種免許状取得の課程認定を受けている四年制大学の実態から～，日本健康相談活動学会誌， 1 (1)，33-45，2006
- 7) 財団法人日本学校保健会：養護教諭研修プログラム作成委員会報告書，2009

